

○釈文

【右隻】

登陟寒山道、寒山
路不窮、谿長石磊
々、澗濶草濛々、苔
滑非関雨、松鳴不
仮風、誰能超世累、
共坐白雲中

○読みくだし

寒山の道を登陟^{のぼ}れば
寒山、路、窮まらず
谿^{けい}長くして石磊々^{らいらい}
澗^{かん}は濶^{ひろ}くして草濛々^{もうもう}
苔の滑らかなるは雨に関わるに非ず
松の鳴るは風を仮^からず
誰か能^よく世累^{せらい}を超えて
共に白雲の中に坐せん

『寒山詩』三二

田家避暑月、斗酒
共誰飲、雑々排山
果、疏々罍酒樽、蘆
菰将代席、蕉葉且
充盤、酔後搢頤坐、
須弥小弹丸

田家^{でんか}、暑を避くるの月
斗酒^{としゅ}、誰と共にか飲^{たの}しまん
雑々として山果^{さんか}を排^{なら}べ
疏々として酒樽^{しゅそん}を罍^{むしろ}む
蘆菰^{ろしょう}、もって席^{むし}に代え
蕉葉^{しほ}、且^{しば}らく盤^さに充^あつ
酔後^{あへ}、頤^{あへ}を搢^{ささ}えて坐すれば
須弥、弹丸よりも小なり

『寒山詩』一一八

○釈文

【左隻】

ト擇幽居地、天台
更莫言、猿啼谿霧
冷、嶽色草門連、折
葉覆松室、開池引
澗泉、已甘休萬事、
采蕨度殘年

○読みくだし

トぼくたく択す幽居の地
天台、更に言うこと莫なし
猿啼けいむいて谿霧冷ややか
嶽色がくしよくは草門そうもんと連なる
葉を折つて松室を覆い
池を開いて澗泉を引く
已に万事を休むるを甘んじて
蕨を采つて殘年をわたる

〔寒山詩〕七九

惡趣甚茫々、冥々
無日光、人間八百
歲、未抵半宵長、此
等諸痴子、論情甚
可傷、勸君求出離、
認取法中王

惡趣は甚だ茫ぼうぼう々たり
冥々として日の光無し
人間、八百歲
未だ半宵はんしょうの長きに抵あたらず
此等、諸もろもろの痴子ち
情を論ずれば甚だ傷むべし
君に勸む、出離を求めて
法中の王を認取せんことを

〔寒山詩〕九一